

二 王 子 岳 山 行 記 録



油コボシの登り



氷の着いた避難小屋



雪の状況見ながら下る

目的地	二王子岳	期 日	平成22年3月24日（水）・曇りと晴れ
山人	笠原正雄・川口志枝子	特 記	Kの休みと天気がようやく一致した。二人での貸切り山。

地 点 名	時 刻	記 事
二王子温泉病院前	午前 7:30	路上駐車朝弁当を食べながら、山形市からのKを待つ合流。
南 俣 駐 車 地 点	7:50 発	林道は雪が無いが、森林作業のため進入禁止。途中中型トラックが杉丸太を満載して下って来た。15分で姫田川に掛かる橋に出る。橋上は雪が残っていて、車で入れたとしてもここまでである。路上の雪を壺足で進む。たまに抜かる。
二 王 子 神 社	8:35～8:50	神社前広場は全面雪が残っている。入山帳に記名。2日前にSさんHさん他の名が書き込まれていた。杉林の雪歩き。
残雪ルート尾根	9:40～9:45	神子石は僅か頭を出して雪の下、どれだか分らなかった。雪尾根に上がる。一王子小屋を左下に見て先の尾根へと進む。
定高山独標	10:50～11:05	積雪柱は3m。少し食べる。白い佐渡とボンヤリ栗島、そして二王子山頂が見える。少しモヤッているが、薄日が差し始め、期待を抱かせる。暑くなり一枚脱ぐ。
五頭山を背に登る	11:35	広い尾根に登る。背後に五頭山がくっきりと見える。樹氷が現れる。
油 コ ボ シ	12:00	直登が出来ず、右手に露出している樹林の枝につかまりながら登り切る。ここまで踏み跡があって、それに倣ったが、この先不鮮明になり、施されたポールが頼りだった。寒くなって来た。
朝 日 連 峰	12:25	前方に白く輝く朝日連峰が目に入って来た。更に、海の上にボンヤリ見えているのは鳥海山だろうか。だんだん雪が固くなり、斜面では慎重にならざるを得ない。クラストも薄い。滑りそうな所はなるべく直登するようにした。
9 合 目	12:35	樹氷が厚くなって来る。アンテナ柱は氷をまとっていた。
二王子岳山頂	12:45	小屋は雪氷が着いて白くなっている。飯豊連峰を全て見渡せるが、空に雲があって絶景とまでは行かなかった。眺めながらランチとしたいところだが、風が強く寒い。小屋に入る。野菜を炒め、塩ラーメンを煮る。
下 山 へ	午後 2:00	更に気温が下がり、風も強まった。もう一度飯豊を眺めてから下山。
油 コ ボ シ	2:25	上山時よりも少し先まで下り、V字で引き返すように枝につかまりながら降りる。ここまで風があり、寒く感じたが、この先穏やかになる。
定高山独標	2:55～3:05	気温も上がって来た。少し休んで、シリセードをまじえながら一王子小屋と神社祠の前へ行く。そこからは夏道ルートを迎って下る。
上山ルートと合流	3:40	神子石の少し上、合流点直前で小沢を両足で踏み抜いてしまった。
二王子神社	4:05～4:15	神社から下るコンクリートの階段が傾斜している。Kが薄い雪に足を滑らせて二度も尻餅をついた。林道を抜かりながら帰る。
南俣駐車地点	5:00 着	林道途中で若者1人が手ぶらで上って来た。神社まで行くのだろうか。車に戻りKと分かれて6:30帰宅。

今年も2月28日に開かれた小国山岳会の雪山講習会に参加した。その際、川口女史からこの山の話が出た。彼女は水曜日が休みである。今年はなかなかお天気の日が少なく、3週目でようやく天候と合致した。連絡したのは前日の夕方の天気予報を見てからである。

残雪期には何度かこの山を歩いている。また、ほぼ一ヶ月前の2月21日に中野、森山と定高山まで行っている。過去の経験からして、カンジキは必要だが、アイゼン、ピッケルは不要と判断した。従って持参しなくとも良いと連絡していた。ところが、今回は違っていた。例年ならしっかり付いているはずのトレースも不鮮明で雪も硬かった。少なくともピッケルは必要であった。

GPS ポケナビも故障修理中である。ポールが導いてくれたから良かったが、先が見渡せなければ進路に迷ったであろう。予報では青空が広がると思っていたが、終始薄い雲がそれを隠していた。